

日本人による戦前期内モンゴル西部地域における 調査資料の収集とその史的価値の検討

ガンバガナ

秋田国際教養大学 助教

緒 言

清末期に始まる漢人移民のモンゴル地域への入植により、内モンゴル社会はそれまでにない激動の時代をむかえることとなった。結果として漢人の大量流入を阻止することができず、内モンゴル地域は東西から挟み撃ちされるように開墾され、長い間遊牧文化を育んできたモンゴル高原の風景は見る見るうちに変わっていったのである。こうした内モンゴル近代史における歴史的变化を研究するにあたっては、戦前期に日本人によって実施された内モンゴル地域における調査資料は重要な情報源となるのは言うまでもないが、それに対する調査研究はいまだ充分に行われていないのが実情である。

日本人によるモンゴル地域における調査資料と言えば、20世紀初頭まで遡ることができる。当時、東北アジア地域の利権問題をめぐって帝政ロシアと熾烈な戦いを展開していた日本は、早くも大正期に、駒田信夫、盛島角房ら関東軍の特務たちを外モンゴルに派遣して調査活動を行っていた。その後、第三の日露秘密協約（1912）と日中間の「南満洲東部内蒙古に関する条約」（1914）の確定により、東部内モンゴル地域が日本の勢力範囲に入るや、これらの地域においても調査活動を展開した。さらに「満洲国」（1932）の樹立と、内モンゴル自治運動（1933）の発生後、その活動は西部内モンゴル地域までに拡大した。その調査活動には、日本政府機関からは軍関係者、南満洲鉄道会社、善隣協会などの民間団体からは、東亜同文会、東亜考古学会などの研究機関に至る幅広いユニットが関わっており、調査の対象はモンゴル地域の政治、経済、軍事、地理、資源、人口、気象、風俗等さまざまな分野にまたがっている。

しかし、従来の研究のほとんどが東部内モンゴル地域に集中しており、西部地域を扱ったものは皆無に近い。よって、本研究では、内モンゴル西部地域における日本人の調査資料の収集を行うとともに、それらの資料の史的価値を検討することにした。

方 法

本研究を進めるにあたって、文書館資料・図書館資料の収集と新発見が決め手となる。そのため、防衛省防衛研究所、外務省外交資料館、国立国会図書館、アジア経済研究所など関係する各文書館、図書館、さらに当時日本人が活動していた地域の関係する諸文書館・図書館にも足を運び、精力的に資料の発掘と収集を実施した。

結 果

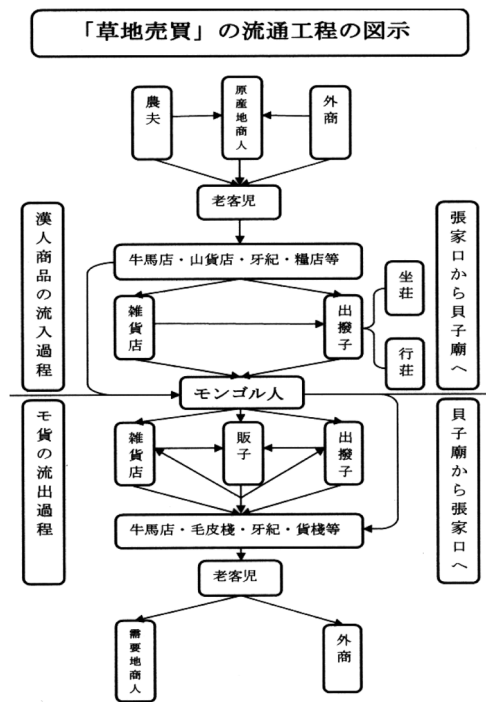
牧畜業が盛んだった西部内モンゴル地域についても、多くの調査資料があることを確認できた。内モンゴルの牧畜社会の歴史とその変容のあり方を研究するうえで、これらの調査資料は欠かせないものになるだろう。収集した資料の一部を取り上げるなら以下のとおり。

「察哈爾省特別調査報告書」、「内蒙古西蘇尼特附近兵要衛生・蒙古人生活状態調査資料」、「内蒙古貝子廟附近兵要衛生・蒙古人生活状態調査資料」、「察哈爾・綏遠省兵要地誌」、「北支兵要衛生概要」、「渾善達克沙漠附近調査報告」、「蒙古軍幼年学校教育参考資料」、「蒙民生活研究資料」、「張家口における旅蒙貿易」、「張家口を中心とする流通機構に就いて」、「多倫・貝子廟並大板上廟会事情」、「内外蒙古接壤地域附近一般調査」、「蒙疆牧業状況調査」、「蒙疆畜産資源調査報告書」、「家畜越冬状況調査報告書」、「察哈爾蒙古の近情」、「辺疆問題書」、「蒙疆政権管内羊毛資源調査報告書」など。

考 察

収集した資料を活用しながら論文執筆を実施した。題目は「戦前期内モンゴルにおける「草地売買」について」。これを日本学術振興会27年度研究成果促進費で出版が決まっている『日本の対内モンゴル政策の研究』という本には、「補論」として使っている。

本論文では、シリール盟を事例としながら、戦前期内モンゴルにおいて盛んだった「草地売買」という特



殊の形態をもつ取引方法の実態と影響を明らかにした。すなわち、「草地売買」において、主役となっていた漢人商人たち、いわゆる「旅蒙商」が、いかに、地方的集散市場としてのドローン・ノール、張家口など周辺都市を拠点としながら、「出撥子」としての「行莊」を組織してモンゴルの奥地まで送り、商品の取引を行っていたのか、それが、いかに「蒙地」における「坐莊」の出現を促し、さらに、バンディド・ゲゲーン・スム（貝子廟）のような草地取引市場の形成につながり、結果的に、「坐莊」を基地としながら忍び寄ってくる漢人移民の拠点になったのか、という問題を明らかにした。構成は以下のとおり。

はじめに

1. 「旅蒙商」の業態
2. 「草地売買」における取引市場

2.1 草地取引市場としてのバンディド・ゲゲーン・スム

2.2 地方集散市場としての張家口

3. 「草地売買」の流通工程

3.1 漢人商品の流入過程

3.2 「蒙貨」の流出過程

おわりに

謝 辞

本研究を実施するにあたり、公益財団法人三島海雲記念財団平成26年度学術研究奨励金の助成を受けました。ご支援を賜りました公益財団法人三島海雲記念財団ならびに関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

文 献

- 関東軍参謀長西尾寿造：察哈爾省特別調査報告書提出ノ件（陸軍省大日記），防衛省防衛研究所。
 参謀本部：察哈爾・綏遠省兵要地誌（陸軍一般資料），防衛省防衛研究所。
 駐蒙軍参謀本部：渾善達克沙漠附近調査報告（陸軍省大日記），防衛省防衛研究所。
 駐蒙軍軍医部：内蒙古西蘇尼特附近兵要衛生・蒙古人生活状態調査資料，防衛省防衛研究所。
 戊集团軍医部：内蒙古貝子廟附近兵要衛生・蒙古人生活状態調査資料（陸軍一般資料），防衛省防衛研究所。
 蒙古軍幼年学校教育参考資料（陸軍一般資料），防衛省防衛研究所。
 蒙民生活研究資料（陸軍一般資料），防衛省防衛研究所。
 陸軍省：北支兵要衛生概要（陸軍一般資料），防衛省防衛研究所。
 外務省調査部：辺疆問題調査書，1936。
 興亜院政務部：蒙疆牧業状況調査，1941。
 興亜院：蒙疆畜産資源調査報告書，1940。
 在張家口大日本帝国大使館事務所：蒙疆畜産資源調査報告書，1943。
 鐵路総局：多倫・貝子廟並大板上廟会事情，1934。
 東亜産業協会察哈爾調査班報告書：察哈爾蒙古の近情，1934。
 南滿洲鉄道株式会社庶務部調査課：内外蒙古接壤地域附近一般調査，1924。
 南滿洲鉄道株式会社産業部資料室：張家口を中心とする流通機構に就いて，1936。
 満鉄調査部：蒙疆政権管内羊毛資源調査報告書，1938。
 蒙疆銀行調査課：張家口における旅蒙貿易，1939。